

令和7年度 学校経営要綱

1 学校の教育目標（筑南小中学校共通）

「確かな学力を備え、豊かな心とたくましさを持ち、
主体的に活動する児童・生徒の育成」
～共にかがやけ筑南っ子～

- ① 「**確かな学力を備え**」とは、知識や技能はもちろん、学ぶ意欲や自分で課題を見付け、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題解決する資質や能力等を育て、これから生活を送る中で、必要に応じて活用できるように備えることである。
- ② 「**豊かな心**」とは、自らを律しつつ、望ましい人間関係を醸成し、他人を思いやる心と感動する心などを育成するとともに、子どもの人権感覚を育てることである。
- ③ 「**たくましさ**」とは、基本的な生活習慣の確立を図り、自らを鍛える姿勢を育て、たくましく生きるための健康・体力、耐性を育成することである。
- ④ 「**主体的に活動する**」とは、自分の意志・判断によって行動することであり、活動の目的や意義・価値を理解し、興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組むことができるようにすることである。

2 目指す子どもの姿（筑南小中学校共通）

かながえる子ども…… 自ら学び基礎・基本を習得し、活用する力を高める子ども
がんばる子ども…… 目標に向かって粘り強く取り組む態度を身につけた子ども
やさしい子ども…… 善悪の判断ができ、思いやりや感謝の気持ちを持つ子ども
けんこうな子ども…… 体力向上に努め、食に対する知識をもち、よりよい生活習慣を身につけた子ども

【目指す学校の姿】

- 生徒一人一人の学びが保障される学校
- 秩序と規律があり、生徒も教師も安心して学び育ち合う学校
- 教育環境が整備され、生徒も教師も自己実現が図れる学校

【目指す教師の姿】

- 環境の変化を前向きに受け止め、教職生涯を通じて学び続ける教師
- 子ども一人一人の学びを最大限に引き出す教師としての役割を果たす教師
- 子どもの主体的な学びを支援する伴走者としての能力も備えている教師
- 職能成長をめざし、自己研鑽に努め、自らの責任を果たす教師
- 共通理解のもと、協働して組織的に活動し、生徒・保護者・地域から信頼される教師

3 中期的目標

- 主体的に行動し、自尊感情を高め、他人を思いやり、感謝の心を表す生徒の育成
- 共に学び、基礎学力や活用する力を身につけた生徒の育成

4 本校の特色

- (1) 学力向上を目指し努力する学校
- (2) 秩序と規律があり、安心して学び合える学校
- (3) 学年を問わず、男女仲良く活動する学校
- (4) 小学校と連携し、9年間を見通して子どもを育てる学校

5 本校生徒の実態と教育課題

(1) 生徒の実態と課題

- ・真面目で、落ち着いた学校生活を送っている。
- ・定例の生徒会活動に取り組んでいる。
- ・規範意識が高く、言われたことはきちんとできるが、指示待ちの生徒が多い。また、課題に対して主体的に取り組む態度に課題がみられる。
- ・ここ数年の学力テスト、全国・県学力調査の結果から、生徒の思考力・判断力・表現力の育成に課題がみられる。
- ・家庭学習など計画的な学習や提出物に課題がある生徒が固定化してきており、学力・学習習慣の定着に二極化の傾向がみられる。
- ・将来の夢や目標を十分持ちきれていない生徒がいる。
- ・小学校からの固定化された人間関係のため、人間関係づくりに課題がある。

(2) 学力についての実態と課題

・実態（令和7年2月 学力分析テスト）

標準化得点（本校の平均点÷県の平均点×100）

新3年生 120.9

新2年生 106.9

新1年生

・課題

学力分析テストの結果では、学年、教科において差はあるものの県平均を超えている。特に、2，3年は入学時の学力を上回っており、この傾向を維持・向上させたい。

しかし、生徒個々人に目を向けると、語彙力の不足や、文章問題を読み取る力など基礎学力に課題がみられる生徒が多く、学習習慣も含めた個別指導等のきめ細かな指導が必要である。

学年別では

3年生…選択式・短答式の問題については正答率が高いが、資料やデータをもとに、じっくり考えて答えを導き出す思考力・判断力・表現力に課題がみられる。

2年生…文章を大筋で捉えたり、問われていることを理解し的確に答えたり

する「読む力」の育成に課題がある生徒がみられる。また、学年内で学力の二極化傾向がみられる。

1年生…今後、分析していく。

(3) 本年度の教育課題

- 妥協せず主体的に学びに向かう力の育成（目標・意欲）
- 学力の二極化の是正（補充学習・学習習慣）
- 基礎基本の定着とそれらを活用する力の育成
（自分の考えをまとめ、表現する）
- 自己肯定感・自己有用感の育成

6 地域の願い・保護者の意識

(1) ふくおか未来人材育成ビジョンより

「ふくおか未来人材」とは「国際的な視野を持って、地域で活躍する」若者のことである。

「ふくおか未来人材」に求められる力としては、次の3つが必要である。

- ①学力、体力、豊かな心
- ②社会にはばばたく力
- ③郷土と日本、そして世界を知る力

学校教育の目標

- 1) 社会的自立の基盤となる、学力、体力、豊かな心を培う。
- 2) 社会の変化に対応し、社会を支え、その発展に寄与する力を育てる。

(2) 八女市教育目標と達成のための具体的指針

① 八女市教育目標と具体的指針

教育目標 『ふるさとを愛する人づくり』

具体的指針

- 生きる力（確かな学力、豊かな心、健やかな体）を育むまちをつくる
- 市民が生涯にわたって学び活躍するまちをつくる
- 歴史と伝統に育まれた八女文化が生きるまちをつくる
- スポーツの力で、健康なまちをつくる

② 達成のための具体的指針

- 確かな学力の向上のための特色ある取り組みと家庭学習習慣の育成
- 小中一貫・連携教育の更なる推進
- CS や地域学校協働本部など地域との連携を推進する

③ 重点事項

- (1) 「地域に信頼される学校」づくりに務める。
- (2) 豊かな心（規範意識）・健やかな体（教育相談・食育・部活動）の育成に努

める。

(3) 学習指導、生徒指導、人権・同和教育における小中連携を推進する

(3) 保護者の意識

○保護者アンケート（4段階評定）	R5	R6
〈高い〉		
・安心して学校に通える。	(3. 55)	→ (3. 60)
・ルールやマナーの指導をしている。	(3. 59)	→ (3. 60)
・学校便り等で学校の様子が分かっている。	(3. 66)	→ (3. 64)
〈やや低め〉		
・いじめのない学校・学級づくり。	(3. 56)	→ (3. 44)
・学校は積極的に学力の定着や向上。	(3. 37)	→ (3. 32)
〈低い〉		
・授業は楽しく、わかりやすいようだ。	(3. 07)	→ (2. 80)
・意欲的に学習に取り組んでいる。	(3. 00)	→ (2. 68)

上記のアンケートを考察すると、学校生活については概ね満足できる結果であるが学習指導についてやや評価が低い傾向にある。家庭での学習状況と併せて課題と捉える必要がある。

7 特色ある学校づくりへの経営方針

◎ 「筑南中教職員の凡事徹底」（本校の教職員の行動規範）の推進

これまでの筑南中学校教職員が取り組んできた日常的な指導を、教職員の行動規範としてまとめ、日常の指導の基盤に据え、年度当初に確認する。

教職員として「当たり前のことを当たり前にする」意識を高め、さまざまな教育活動を推進する。

◎ 教職員が使命感・情熱を持ち、共に学び合う教師集団づくりに努める

心身共に健康で教育に対する使命感と情熱を持ち、協力して教育活動を展開することで、生徒の成長が図られるものとする。生徒理解のための情報交換や行事等の運営での協働活動、また、取り組みを評価し合うことにより共に学び合う教師集団を目指す。

◎ 「お互い様の精神」のある職員室と不祥事の防止

キャリアの違いはあるが同じ仕事をしている者同士が、「お互い様」の精神で関わり合うことでこそ居心地のよい職員室になっていくものである。また、この雰囲気の中で人材育成も図られ、さらに、風通しの良さが不祥事等の防止にも繋がっていくものとする。

◎ 働き方改革の推進

ここ数年ペーパーレス会議の推進、計画年休に取り組んできた。この取組を継続しつつ新たな取組を積極的に取り入れながら、教育の質の向上、教職員のワークライフバランスのとれた働き方を目指していく。

8 本年度の重点目標

重点目標 「目的意識をもって表現できる」生徒の育成

【重点目標の意義について】

重点目標は、学校教育目標の達成を目指して、生徒の実態ならびに今まで培ってきた教育活動を考慮して、本校の教育活動により生徒を伸ばすために一番良い波及効果があるものを設定する。具体的には次の3つの意義があると考えられる。

- 様々な課題を解決するための突破口にする。
- 教職員が全員で取り組むことで達成感、満足感を味わう。
- マンネリ化を防ぐ。

【重点目標に対する見解】

昨年度は「自分の考えをまとめ、表現する」ことに重点を置き、次の2点に留意して取組を進めた。

- 自ら学ぶことの意義や学習の必要性を自らの生き方と関連させて考えさせること。
- 授業等さまざまな活動において「考えをつくり」、「表現する」場を設定し、そのための手立ての工夫と学びの構築を図ること。

「考えをまとめ、表現する」とは、明らかにしたい課題や学習の対象をつかみ、理解したことに基づいて、自分の既習の知識やさまざまな経験と結びつけて、考えをまとめ、広げたり、深めたりしていくことである。また、他者との交流を通じて自分の考えを深めたり、広めたり、集団で一つの考えを作り出したりすることである。

そして、学ぶことに興味や関心を持ち、自分の進路や職業などの方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげるという「主体的な学び」への変容を目指すものである。

しかし、一部に受け身的な学習態度がみられ、指示されたことには良く取り組むが自ら進んで学習に向かっていくという学習態度への変容とまでは言い切れない実態がある。理由として、

- ・課題解決への見通しを持たせるための手立てが十分とはいえず、「何を明らかにするのか」「何を（内容）どのようにして（方法）どうするのか（言語活動）」という課題の設定が不十分である事例などがあげられる。

本年度については「目的意識をもって表現できる」ことに重点を置く。これは、ここ数年の本校の課題である思考力・判断力・表現力の育成を目指すものである。思考・判断・表現の過程には

- ・物事の中から問題を見だし、その問題を定義し解決の方向性を決定し、解決方法を探して計画を立て、結果を予測しながら実行し、振り返って次の問題発見・解決につなげていく過程
- ・精査した情報を基に自分の考えを形成し表現したり、目的や状況等に応じて互

いの考えを伝え合い、多様な考えを理解したり、集団としての考えを形成したりしていく過程

・思いや考えを基に構想し、意味や価値を創造していく過程
の大きく3つが考えられる。中でも2つめに挙げた少人数の集団の中での「主体的な学び」と豊かな「表現力」が本校の課題である。「主体的に学び表現する」ためには、何のために学ぶのかという明確な意義と、目標、そしてどのように学ぶのか、という学び方の選択とそれをどう表現するのかという方法、何のために表現するのかという目的が必要である。加えて安心して学習できる環境と自分の考えに自信をもつための確固たる根拠や信念も必要となる。

それらの力を身につけることで生徒自身の主体的で深い学びにつながり、ひいては非認知的能力の育成になると考え、重点目標に設定した。

【評価指標】

◇学力向上に向けた具体的指標の達成

◇生徒・保護者の実態調査

- | | |
|------------------------------|------------|
| ・ 基本的な生活習慣……………生徒への質問紙（4件法） | 目標値 3. 4以上 |
| 保護者への質問紙（4件法） | 目標値 3. 3以上 |
| ・ 学習意欲・学習習慣……………生徒への質問紙（4件法） | 目標値 3. 1以上 |
| 保護者への質問紙（4件法） | 目標値 3. 0以上 |

【重点目標を達成する具体的指針】

○学習指導における取組（学力向上、学習意欲の向上）

- ・ 思考力・判断力・表現力を育てるための授業改善
(基礎基本の習得、活用する力、学習意欲)
- ・ 学び方の選択肢を具体的に示し、主体的な学びの定着を図る。
- ・ 生徒指導の実践上の4つの視点を生かした授業づくり（自己決定の場の提供）
- ・ 授業と家庭学習をつなぐ工夫（学習習慣の形成）
- ・ 授業研修会の実施と協議会の工夫

○キャリア教育（全教育活動をとおして自己実現・進路実現を目指す）

- ・ 自ら学ぶことの意義や学習の必要性を、自らの生き方と関連させて考えさせること。
- ・ 社会的・職業的自立に向けて必要な資質・能力の育成
- ・ 地域の人・もの・ことを活用した地域学習の充実

○学年・学級経営における取組（環境づくり、学習意欲の向上及び二極化解消）

- ・ さまざまな教育活動において意欲を高める取組（目標づくり、粘り強く取り組む、振り返り）を推進
- ・ 生徒にとって安全で、安心して学習に取り組むことができる学級環境づくり
- ・ 生活ノートにおける1日の振り返り（学習、生活）
- ・ 自学ノートによる指導を徹底すると共に、発達段階に応じた学習計画づくりを定期考査、学力テスト前に指導
- ・ 学級活動における学び方の指導

- 生徒指導における取組（自己指導力の育成）
 - ・生徒の主體的・自発的な成長を支える生徒指導への転換
 - ・学ぶ姿勢の育成（聞く態度、学ぶ態度、時間を守る：チャイム席 など）
 - ・規範教育や命の授業を継続し、安心して安全な学校環境をつくる
- 特別支援教育における取組（個に応じた指導）
 - ・個に応じた指導・支援の充実と情報共有

9 本年度の経営課題

(1) 本校の経営上優れている面と課題

- ・小規模校の良さを生かし、きめ細かな徹底した指導により、学力の定着、基本的な生活習慣の育成、規範意識の指導や集団力の育成を図る取り組みを進めている。
- ・教育課程については質的な部分をより重視する必要がある。
- ・昨年度は、県道徳教育推進事業の公開授業を行い、道徳科の授業づくりに全教職員で取り組むなど協働体制が高まった。
- ・教職員の人数が少ないため、様々な取り組みに対して、ややマンネリ化する傾向が見られる。校内組織を整え、教育活動を充実するための環境づくり（居心地のいい職員室からの生徒理解、円滑な情報交換、教職員の行動規範の実践）をさらに充実させる。

(2) 経営課題

- 課題の共有と共通実践の徹底（報告・連絡・相談の充実）
- 組織的・協働的な対応の徹底
- 授業改善と授業力の向上
- 職能と成長と個が生かせる組織・運営の確立

10 本年度の経営重点

(1) 確かな学力を身につける教育課程の編成・実施に努める。

- ① 各教育活動の目的・意義の明確化と計画的な実践及び評価を行う（積極的なアップデート）
- ② 「目的意識をもって表現できる」生徒の育成を重点においた教育課程を実施する。
- ③ 主題研究の推進による必要な課題の設定と具体的な学び方の選択肢を取り入れた授業改善を図り、授業と家庭学習をつなぐ工夫をする。
- ④ 教育課程実施状況の把握とカリキュラムマネジメントの充実。
- ⑤ 学力向上プランを推進し学力を高める。
- ⑥ ICTを活用した個別最適な学びへの授業改善（ギガ・スクール構想）

(2) 組織による協働体制の確立を図る。

- ① 重点目標達成のための具体的な手立てを共通理解して取り組む。
- ② 各種委員会の定例化し実態把握と手立て、評価に取り組む。
- ③ 生徒指導においてははじめ見逃しゼロ、不登校の減少に取り組む。
- ④ 家庭・地域との連携を重視する
- ⑤ 職員会議の効率化と校内研修の場の充実を図る。
- ⑥ 報告、連絡、相談を徹底し、組織的な対応ができる指導体制を構築する。

(3) 特別支援教育の視点に立った指導を充実する。

- ① 通常の学級における配慮を要する生徒への対応の充実（合理的配慮）
- ② 特別支援学級担任と教職員の連携強化。

(4) 小中連携の実践に取り組み、9年間を見通した教育の推進を図る。

- ① 小中連携教育推進委員会を中心に各部会の活動を充実させる。
- ② 小中合同による行事やPTA行事を開催し、開かれた学校づくりを行う。
- ③ コミュニティスクール・地域学校協働本部の充実を図る。

1 1 校内研究 →詳細は校内研究計画へ

研究の推進にあたり、以下の4つの視点を重視する。

- ・校内研究推進委員会を中心とした校内研修体制の充実を図る。
- ・外部講師を招聘し、授業研究を通じた校内研修の充実を図る。
- ・計画的に授業研究会を実施し、授業後の研究協議会の充実を図る。
- ・一般研修についてはミニ研修会の積極的導入を図る。

1 2 学力向上に向けた具体的指標

(1) 学力検査では県平均110%、全国・県学力調査では平均以上。

【設定理由】

評価と指導の一体化を図るため「学力検査では県平均110%、全国・県学力調査では実施教科全てで平均以上」を具体的な目標として継続して取り組む。

平均点のみにこだわるのではなく、個人の「のび」を各教科担任、学年教職員で把握し指導に生かしていく。

生徒の卒業後の進路実現を目指す観点から、中3における10月、11月の学力テストでの指標達成を目指す。

【取り組み】

「目的意識をもって表現できる」生徒の育成を目指した授業改善の取組を推進する。また、学力向上プランに基づいた各教科、各学年での学力向上への指導を徹底する。

生活ノートを活用した学習の振り返り、「書く力を高める」日常的な指導を全ての教科、領域、教育活動において実践する。

(2) 1・2年は80分以上、3年は100分以上平時の家庭学習をする。

【設定理由】

学習習慣の形成を図ることは、学力の定着に欠かせないことと捉え、1・2年は80分以上、3年は100分以上の家庭学習をすることを目標とする。

【取り組み】

家庭学習時間調査を年3回実施する。
自学ノートの指導を通して家庭学習の促進を図る。

(3) 月2冊以上本を読む。※図書館の本

【設定理由】

読書量を増やしていくことが語彙力及び読解力の向上や幅広い知識の習得と、自分の世界を広げるといふ豊かな感性の醸成につながっていくと考える。

【取り組み】

学校司書、生徒会学習委員会を中心に、全校生徒が目標を達成できるように取組を推進する。また、年間を通してよりたくさんの本を読んだ生徒の表彰（多読賞）を行う。

1.3 教育課程編成の基本方針

(1) 教育課程の編成者

- ① 校長を責任者とする全教職員の協働のもとに編成する。
- ② 教頭と主幹教諭(教務担当)が協力し、教育課程の編成日程や編成計画を策定する。
- ③ 教育課程編成委員会は「運営委員会」が兼ねるものとする。
- ④ 以下、教頭が中心となり全教職員が連携して実行可能な教育課程の編成を教育指導計画を策定する。

(2) 教育課程編成の原則

- ① 関係法令や学習指導要領の示すところに従う。
- ② 中学校学習指導要領解説(総則編)の第3章教育課程の編成及び実施をもとに行う。
- ③ 地域や学校の実態や生徒の特性を考慮する。

(3) 教育課程編成において配慮すべき内容

- ① 授業時間数の確保と個に応じる指導の充実を図る。
 - ア 学校管理規則に沿った(年間授業時間数1015～1045時間の確保)時間の計画と実施。
 - イ 年間指導計画に基づく、各教科等の充実と学校行事の精選・充実。
 - ウ 指導方法工夫改善の取り組みとして、市少人数指導教員を活用したTTの充実。
 - エ 言語活動の充実による思考力・判断力・表現力の向上に繋がる授業改善

- ② 豊かな感性と実践力を育成する「生き方学習」を充実する。
 - ア 道徳科の授業を要とした道徳教育全体計画に沿った実践
 - イ 道徳教育推進教員を中心にした指導法の工夫・改善
 - ウ 全ての教育課程の中心に据えた人権・同和教育の系統的・計画的な実施
(かがやき、八女市人権同和教育資料の活用)
 - エ 課題解決に向けて進んで取り組む総合的な学習の推進
 - オ 朝読書・朝の活動の充実
 - カ 学校行事・職場体験活動・職業講話等を教科と関連させた系統的・計画的な体験活動の推進
- ③ 特別支援教育への支援体制を考慮した編成を工夫する。
 - ア 市特別支援教育支援員の活用。
 - イ 各教科担当による特別支援学級への授業の入り込み。
- ⑤ 学校運営協議会、地域学校協働活動を推進し教育活動の充実を図る。
 - ア 学校経営への意見の聴取。
 - イ 学校関係者評価委員として、学校評価の妥当性の評価と日常的な教育活動への意見聴取。
- ⑥ 学力向上に向けた具体的指標の達成を重点事項として取り組む。
 - ア 学力分析テスト等の結果集約と分析。
 - イ 全国・県学力調査の結果の分析と学力向上プランの見直し。
- ⑦ 余剰時間の活用
 - ア 1.2年生の学力テストは余剰時間で計画する
(各教科実授業時間の確保)
 - イ 生徒数減に伴う対応として校内清掃日を月2回設定する。
 - ウ 地域学習の充実を目指した総合的な学習の時間の補足に当てる。

(4) 特別支援学級教育課程の編成

特別支援学級において実施する特別の教育課程については、次のとおり編成する。

- 障がいによる学習上または生活上の困難を克服し、自立を図るため自立活動を取り入れる。
- 生徒の障がいの程度や学級の実態等を考慮の上、各教科の目標や内容を学年の教科の目標や内容に替えたりするなど、実態に応じた教育課程の編成をする。
- 特別な教育課程の実施にあたっては、教材研究、授業準備に多くの時間が必要になるため、特別支援学級担任には学年の業務を基本担当させない。
(但し、校内人事の関係で必要な内容についてはこの限りではない)